

CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia)

アルツハイマー病根本治療薬の 開発を目指して

治療薬探索研究部 リード分子探索研究室

滝川 修 室長

平成 22 年 11 月 11 日(木) 午後 16 時 00 分～
東棟 2 階 会議室

認知症患者の大半を占めるアルツハイマー病 (AD) の根本治療薬の開発は喫緊の課題である。現在、アミロイド仮説に基づきアミロイド β 蛋白 (AB) の産生を抑制する β -及び γ -セクレターゼ阻害剤や神経毒性の本体とされる AB オリゴマー形成阻害剤の開発が精力的に進められている。また、神経細胞死に直結するタウ蛋白凝集阻害薬の開発も進行中である。しかし、臨床試験で有効性を示す薬剤は未だ得られていない。これらに加え、AB に対するワクチン療法や抗体療法などの免疫療法も検討されているが、これまでのところ、必ずしも、期待通りの結果は得られていない。

国立長寿医療研究センター研究所にはこれまでの AD の病態研究から生まれた創薬シーズが少なからず蓄積している。この蓄積を活かし AD の根本治療に繋がる候補化合物をセンター自ら開発することを目指して、平成 22 年 4 月に新たに設立した認知症先進治療開発センター内に治療薬探索研究部を設けた。本研究部に化合物ライブラリーを整備し、高速にスクリーニングを行うロボットシステムなどを導入すべく準備を進めている。本報告会ではセンター内の創薬シーズの紹介や AD 治療薬の開発に有用なタウ蛋白凝集体の PET プローブの創生など、治療薬探索研究部の戦略を述べる。